

令和2年度 上田市立 浦里小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	
自分のよさを切り拓く子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで勉強しよう ・思いやりのある人になろう ・丈夫な心と体をつくろう ・ふるさと(浦里)に学ぼう 	
	今年度の重点目標	
	1	自分の考えを持ち、自分から伝えられる
	2	人にやさしくできる
	3	自分から主体的に動ける
4	自分から地域と関われる	

総合評価					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
学校目標「自分のよさを切り拓く子ども」を目指し、4つの重点目標のもと取り組んできた。①「進んで勉強しよう」については、連学年授業を通して異学年から学んだりふるさと学習を通して地域から学んだりしてきた。今後はふるさと学習を通して、子どもの疑問から出発できる主体的な授業を目指していきたい。②「思いやりのある人になろう」については、異学年や地域の方々や関わる中で、相手を大切にすることが醸成されてきている。今後は異学年や地域の方々等、多様な関わりから学ぶことを通じて、思いやりの心をさらに醸成していきたい。③「丈夫な心と体をつくろう」については、朝マラソンや休みがきの時間を通して主体的に体を鍛えようとしてきたが「継続」という面で不十分な面があるので、課題としていきたい。④「ふるさと(浦里)に学ぼう」については、新型コロナウイルスの影響で制限のある中、ふるさと学習を通して地域と関わってきたことで多くの学びがあり、地域にも発信できた。今後はより主体的に取り組める工夫を考えていきたい。					
コロナ禍ではあったが、限られた活動の中で思いを伝え合う場を位置づけてきた。ふるさと学習発表会において、自分の思いを伝えることができた。		○			今後も異学年や地域の方々や関わる機会を位置づけていく。授業においても「振り返りの時間」の確保を意識していく。
異学年や地域の方々や関わる中で、相手を大切にすることが醸成され、地域の方々からも好意的な評価をいただけた。	○				異学年や地域の方々や関わる中で、相手の立場に立った言動を考え、行動できるようにしていく。
朝マラソンや児童会活動等で主体性を養ってきたが、指示を待って動く児童も少なくない。		○			朝マラソン等主体的な取り組みへの声かけを継続するとともに、主体的な姿を全校に広げていく支援を行っていく。
コロナ禍ではあったが、限られた活動の中で主体的に関わりとする姿も見えてきた。		○			ふるさと学習において課題解決的な学習を位置づけることで、主体的に地域とかかわっていくとする意識を育てていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	総合的な学習・生活科	ふるさと学習において、問題解決学習を基本とした体験学習を確実に一単元以上で実践できたか
		学習支援ボランティアの導入	全てのクラスで複数の教科にわたり学習支援ボランティアを導入できたか
		運動の日常化の推進	マラソンを日常化し、休み時間に体育館や外で遊んでいる児童の数が昨年度よりも増加するような働きかけをすることができたか
	学習指導	学習問題・課題の共有	子どもたちが自ら追究したいと考える学習問題が設定・提示されたか
		コミュニケーション能力の育成	ICT合同授業や連学年授業を充実させ、友だちと関わり、学び合う場面が位置付いた授業が行われていたか。
		きめ細やかな個別指導の充実	はげみタイム・個別指導の時間は複数体制で指導し、基礎基本の獲得・活用力に伸びが見られたか
		意義を感じ、やりがいの持てる家庭学習	家庭学習の手引きや家庭学習ノート等を活用し、家庭・保護者と連携して、定期的に評価することで、力がついていることを実感することができたか。
生徒指導	基本的生活習慣	「早寝、早起き、朝ごはん」「明るいあいさつ」「自分からテレビやゲームのスイッチを切る」を意識して生活できる児童が増えたか	
	良さを見る目と想像力の育成	授業で、友だちのおかげで自分がわかったり、変わったたりしたことを振り返る時間をとることができたか。	
学校運営	地域との連携	コミュニティ・スクール	授業や行事への参加を通して、学校運営のあり方に意見をいただき、それを教育活動の改善に生かされたか
		学校支援組織・PTA	コミュニティ・スクール実践目標のあいさつ・メディアを重点に、学校運営協議会や学級懇談会で取り上げ、地域・家庭と連携して取り組むことができたか。
	研修	教科研究	研究テーマをもとに個人テーマを設定し、研修を積んだことが、子ども中心の授業実践に生かされたか
		各種研修	地域のことを知るための研修や教師として様々な子どもに対応できる研修が行えたか

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
どの学年も体験学習を位置づけた単元を一単元以上実践できたが、問題解決的な学習に至らないこともあった。	○				児童の「問い」から出発できる学習を位置づけ、それを解決していく学習活動をできるだけ仕組んでいく。
新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上で、全てのクラスで複数の教科にわたって導入できた。	○				感染防止対策を十分とった上で、これからも継続して活動に参加していただく。
自主的にマラソン大会に取り組む姿が見られている。休み時間には、異学年で鬼ごっこ等をする姿も見られている。		○			さらに校庭や体育館での遊びの姿が増えていくよう、教師から働きかけを行っていく。
体育科単元訪問を機会に、子どもたちが自ら追究したいと考える学習問題を位置づけた授業を構想し、実践することができた。日常化が課題。	○				体育科単元訪問授業で学んだ「振り返りの場」を位置づけることを他教科でも実践していく。
体育科単元訪問を機会に、連学年授業において異学年同士で関わり合う場面を設けることを通じてコミュニケーション能力の育成につなげることができた。		○			今後も連学年授業や縦割活動を継続し、異学年との交流の中でコミュニケーション力を向上していく。ICT合同授業も計画していく。
はげみタイムや個別学習の時間を継続して行うことで、基礎基本の定着を図ることができた。教科支援隊の参加がコロナ禍のため、限られた期間のみとなったこともあり、活用力については、十分な成果は見られていない。			○		はげみタイムや個別学習を継続するとともに、活用力を意識した取り組みになるようにしていく。
保護者と連携しながら復習、予習を中心とした家庭学習を行い、学習の定着の把握に努めたり、必要に応じて指導をしたりした。		○			よりよい家庭学習のあり方について手引きをもとに再検討し、実践していく。
「早寝早起き朝ごはん」についてはよい結果が出ている。挨拶については多くの子が自分から行っている。テレビ・ゲームについては長時間になる子どももいる。		○			PTAやコミュニティスクールとも連携し、引き続きメディアコントロールについての働きかけをしていく。
友との関わりの中で自分の考えの深まりや広がりを実感している子が増えているが、授業において振り返りを十分確保できない場合もあった。		○			「振り返りの時間を位置づける」ことを再度全校研究の共通の取組として行い、その成果を評価していく。
新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上で、各行事に参加していただいた。アンケートには好意的な評価が寄せられている。	○				今後の計画に沿って活動を行っていく。また、アンケートの評価を活動に生かしていく。
実践目標である「挨拶」「メディア」をPTAと連携しながら進めており、成果にもつながっている。学校運営協議会でも継続的に話題にしている。		○			今後もPTAと連携しながらコミュニティスクール実践目標を意識した家庭及び学校生活を送れるよう呼びかけていく。
個人研究テーマをもとに、よりよい授業づくりについて学ぶことができた。学んだことを共有していくことが課題である。		○			子ども中心の授業のあり方をふるさと学習を窓口と考えていく。
夏季休業を大幅に短縮したため、予定していた地域研修が中止になる等、新型コロナウイルスの影響で十分な計画・実施することができなかった。			○		コロナ禍の中でも感染症対策を講じながら、積極的に計画・実施をしていく。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった